

術前検査, 施行時期の重要性を物語っている。

以上の結果より, Second look ope には病巣の可及的摘出が最も重要で, 腸管切除は2カ所までとし, 骨盤内転移を認めるものには人工肛門設置, また後腹膜リンパ節の検索を行うと共に, 細胞診を含めた, 再発好発部位の試験切除を行い restaging を明確にすることが大切であることが示唆された。

質問

(千葉大) 高見沢裕吉

second look に関する立派なデータをみせていただいた。

① 第1回化学療法について SLO その次の化学療法はいかにしているか。

② 延命効果は呈示されたがその後の生存率はいかですか。

回答

(慈恵医大) 安田 允

① first line 化学療法後, 再発症例に対しては初回化学療法と異なる化学療法を投与している。腺癌で FQ 療法が再発しているものには DDP の投与を行っている。

最も良い方法は感受性試験を行ない決定することと考えている。

回答

(慈恵医大) 寺島 芳輝

first live, second line chemotherapy でいかなる anticancer agents を使用するかについては現在, 確立されておりませんが, われわれは first line として代謝拮抗剤アルキル化剤の組合せ, second line では cisplatin を中心として組合せを考えております。さらに, 与えられた抗癌剤をより有効に使用するため, 投与量, 投与間隔などについて, 基礎的な再検討を行っております。

質問

(新潟大) 武藤 保

① negative SLO 11例の内容とその予後についてお教え下さい。

② OV. cancer stage I でも, 大動脈節や横隔膜転移が約10%あると, Piver, Knapp らが報告していますが, 手術時 stage I と考えられた報告症例は, これらの点をどこまで確認されたのでしょうか。

回答

(慈恵医大) 安田 允

① 再発徴候が認められない効果判定の目的で行った11例中, 2例に肉眼的に再発が認められた。

② 最近の症例3例に腹腔内洗浄細胞診を行ったが, いずれも肉眼的転移が認められ, 細胞診の意義はなかった。また, 横隔膜の擦過細胞診を行っているが, 全例陰性であった。

追加

(慈恵医大) 寺島 芳輝

second look operation の目的などについてはすでに明確なことです, 申し上げませんでした, 初回手術が不明確で second surgery で stage を決定的というようなことは stage の規定にも反します。

305. 卵巣 embryonal carcinoma (樋口・加藤) の臨床的検討—Second look operation, 化学療法を中心として—

(久留米大)

田崎 民和, 西田 敬, 西田 富英

細川 義明, 梅津 純也, 薬師寺道明

加藤 俊

久留米大学産婦人科で過去に取り扱った卵巣 embryonal carcinoma (樋口・加藤) の20例について臨床的検討を行った。

20例のうち13例は1977年以前の症例で, 手術療法の後主として radiation による治療が行われているが11例が死亡, 中でも8例は1年以内に死亡し, 本腫瘍の予後の不良なことがうかがわれた。生存の2例はそれぞれ stage II c, I a (c) —の症例であつたが, stage I でも早期の死亡例があり, 必ずしも早期例で予後が良好であるとは限らなかった。20例のうち1978年以降の7例は手術療法にひき続き VAC (Vincristine, Actinomycin D, Cyclophosphamide), PVB (Cisplatin, Vinblastine, Bleomycin) をはじめとする種々の combination chemotherapy が行われ, 明らかな延命効果が認められた。7例のうち死亡はIII期の1例で, 初回手術後1年10カ月後に死亡した。残り6例のうち4例は最短1年7カ月から最長4年8カ月の disease free の状態を得ている。

Second look operation を施行した症例は8例で, 殆どが1年以内と比較的早期に行われている。

Second look operation は cytoreduction, 化学療法の効果判定の面で意義を有していたものの, 症例によつては, 期待した AFP の下降を示さないものもあり, 施行時期の決定は極めて慎重を要すると思われた。

更に頑固な化学療法抵抗性を示す症例に対し, 今後どのような combination chemotherapy を選択するか, 或いは他の治療法を選ぶか検討の余地が残される。

質問

(大阪大・微研) 澤田 益臣

① induction 後の治療はどのようにされておられますか?

回答

(久留米大) 田崎 民和

現在のところ complete remission を得た症例は

VAC を施行した stage Ic の 1 例のみであり、この例では AFP 正常に下降後 VAC 1 コースを追加し、内服で maintenance を行っている。

質問 (九州大) 塚本 直樹

Second look operation という言葉には種々の意味が含まれている。治療後 clinically に NED である症例に対して手術を行う場合にかぎって、second look operation というべきではないか。

回答 (久留米大) 加藤 俊

Second look operation とは本来、胃癌の手術で、その結果がどうなっているかと言う意味で使用されて来たもので、卵巣癌の手術でも狭義には、そう考えても良いでしょう。然し、其の点を考慮して私共は目的や適応を別々に示して、広義に応用しています。

追加 (新潟大) 半藤 保

Second look operation という言葉は本来、Look を目的とするものと考えられるが、卵巣癌治療の発達段階では、reduction や removal の意味をも含めて用い、将来像として、Look に立ち返るのがよいと思う。

回答 (久留米大) 薬師寺道明

second look operation という表現に対して、

目的がはっきりしているので、Second look operation という表現にこだわる必要はないと思います。

追加 (慈恵医大) 中林 豊

セカンドルックオペレーションという語を本来の cancer free の状態で手術して確認するという意味に使うことが、かえって cancer free の状態とはどういう事か混乱する元となると思います。従って 2 回目に開腹したものを総称し、その中を分類検討した方がよいと考えます。

306. 悪性卵巣腫瘍に対する免疫療法の治療効果について

(名古屋大)

加納 武夫, 太田 正博, 友田 豊

(同・中検) 中島 伸夫

(名古屋第一赤十字病院) 風戸 貞之

(県立多治見病院) 飯田 誠造

(常盤市民病院) 東郷市太郎

(市立岡崎病院) 佐伯明彦

(安城更生病院) 徳橋弥三郎

(大垣市民病院) 梅村 鋁三

(名古屋第二赤十字病院) 小林 巖

(静岡済生会病院) 岡本 美枝

(半田市民病院) 今井 信昭

(豊橋市民病院) 有井吉太郎

(協栄生命検診所) 牛島 有

目的：免疫療法の効果については種々の報告があるが、多彩な予後因子を有する悪性卵巣腫瘍に対して統計学的手法に準拠して、生存率に及ぼす影響を報告したものは皆無に等しい。我々は多施設参加の共同研究により 144 例の卵巣腫瘍を進行期、組織診による 48 の予後因子別に分類し、Well controlled study を行い、悪性卵巣腫瘍に対する免疫療法の有効性を検討した。

方法：症例は免疫療法として OK 432 投与群 78 例とコントロール群 66 例である。進行期別症例数は、I 期 + 中間群 = 28 : 30, II 期 = 15 : 14, III 期 = 18 : 13, IV 期 = 17 : 9 である。手術及び化学療法は統一プロトコールのものに行い、組織学的診断は 1 名の病理学者により判定した。2 群の生存曲線は Kaplan-Meier の方法に従って描き、曲線間の有意差検定は Cox-Mantel の方法により行つた。2 群の背景因子 (年齢、妊娠、組織診、手術程度、化学療法等) については、 $2 \times N$ のカイ 2 乗テストにて 2 群間の分布の差が統計学的に有意のないことを確認した。

成績：中間群、I, II 期では死亡例の少ないことと観察期間が短かいため、有意差を認めるに至らなかった。III 期では Cox-Mantel テストにより、12 カ月までの時点で $U_0 = 2.11$, $p < 0.05$ で有意差を認め、OK432 の延命効果が確認された。転移性癌のみ (10 : 11) の検討でも OK432 による免疫療法の有効性が確認された。($U_0 = 2.502$, $p < 0.025$)

独創点：従来免疫療法の治療効果判定は、retrospective study であったが、我々は多因子の matched pair を作成し、prospective study にて悪性卵巣腫瘍の免疫療法の効果を統計学的に示した。

質問 (東京船員保険病院) 白水 健士

OK-432 群とコントロール群の間に免疫能のパラメータに差がみとめられましたか？

回答 (名古屋大) 加納 武夫

免疫学的パラメータの検討について

リンパ球、PPD, PHA 等の検討を行つたが、今回報告した 144 例については、2 群間に平均値では著明な差を認めなかった。

質問 (鹿児島市立病院) 波多江正紀

24 カ月あたりでコントロール群と survival の cross があるが、24 カ月以上も OK-432 の投与が続けられていますか。

回答 (名古屋大) 加納 武夫